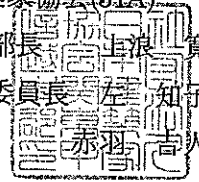




山崎 一郎 様

2012年1月16日

社団法人 日本建築家協会(JIA)
関東甲信越支部支部長 上野 寛
同保存問題委員会委員長 左 知子
同長野地域会会長 赤羽 吉人



旧山崎歯科医院の保存・活用に関する要望書

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

山崎様におかれましては日頃より文化の発展と継承に深くご理解を示されていることに敬意を表します。

私ども日本建築家協会では、地域の文化を形成する重要な役割を建築が担っていることを認識し、また、それぞれの建築物は永く使い続けられることによってこそ、文化と歴史が継承されると考え、今まで数多くの建築に対し保存・活用の提言を行って来ました。

さて、去る6月30日に発生した松本市南部を震源とする大地震により、旧山崎歯科医院の建物は大きな被害を受けました。ここにお見舞いを申し上げますと共に、その後の速やかな安全・応急措置に敬意を表します。

震災当初「修復不能により取り壊しが妥当」との第一報には大変心を痛めました。建築士有志の再度の診断による「修復可能」との結果に安堵しているところでもあります。

ご承知の通り、旧山崎歯科医院は明治21年に建てられたイギリス積みの煉瓦造建築で、今年で築123年を迎えました。山崎家の歴史と繁栄を刻むだけでなく、今では市民の誇る文化財であり、松本の街並み形成の視点からもなくてはならない貴重な社会資産となりました。

明治維新後、東京・銀座では文明開化と都市防災の意識向上から煉瓦街が形成されましたが、旧山崎歯科医院はその近代化の流れを地方都市でいち早く実践した先駆けであり、新しい文化を積極的に取り込む松本人の進取の気質を表す象徴でもあります。東京・銀座の煉瓦街は既になくなりましたが、個人所有の赤煉瓦建築は大変希少な存在であり、平成8年には長野県における貴重な建築として、初の国の登録有形文化財に認定されました。

震災を受け市民と専門家で結成された「赤レンガの旧山崎歯科医院を残す会」には多くの署名や募金が集まっており、今後の動向を、松本のみならず日本全国が注視しております。山崎様におかれましても、何代にもわたり生活を共にした愛着のこもった宝物だと拝察します。その価値を十分に活かすべく、保存修復に絶大なるご支援をお願い申し上げます。

旧山崎歯科医院が市民に愛され、いつまでも記憶に残る松本の景観として末永く継承されることを心より願っております。

なお、当協会としましても、旧山崎歯科医院の保存・活用に関し、できる限りの協力をさせていただくつもりであります。

敬具